

議会活動より

— 議会の3つの委員会で活動しております —

新しい総合計画調査検討委員会

知事が策定する「新しい総合計画」について調査検討をするため10人の議員が選任されました。「人と地域が輝く県づくり」をめざし、30年先の本県の将来を展望し進めております。未来を託されている今、しっかりした計画づくりをして行きたいと思っております。



安全で安心な県民生活対策特別委員会

7月30、31日に県内のふくしま就職応援センター、公共職業安定所、商工会議所や中小企業同友会を調査して参りました。特に昨秋以降、経済、雇用状況が悪化しているため、国や県が連携し、地域の雇用対策を早急に行ない、若者や失業者が希望が持てるよう進めて行かなければならないと感じました。



企画環境委員会県内調査 (7月22日)

白神山地にも負けない様な只見のブナの原生林のある布沢の森林の里応援団の活動を調査して参りました。先祖代々、森を守り続けた皆さん!! 過疎化の中で昭和村と只見をつなぐ吉尾峠は、自然を守るためにも、地域間交流を進めるためにも早急な整備が必要です。



インターネットで「長尾トモ子」と検索すればブログ(日記)がご覧になれます。毎日更新中!



行動する・走る「うつくしま汗かき人」長尾トモ子の日記から

古殿町薪刈り調査

NPOグリーンエネルギーや県中農林事務所振興局・古殿町主催の薪刈りツアーの調査を致しました。「天しほ研究会」の方々の指導の下、杉の間伐材搬出作業を行い、若い人が参加した事により短時間で成果が出ました。林業も次世代につなぐシステム作りが必要だと感じました。



念願の特別支援学級開設!!

昨年から行徳小学校に特別支援学級設置のために県、郡山市に保護者と共に設置要望をして来たことが実り、今年4月から特別支援学級が開設されました。

子ども達がいきいきと授業に臨む姿を見て支援学級が出来たこと、母親の熱意のすばらしさを感じました。



富田西小学校の通学路に信号を!!

— 昨年、郡山の富田地内に国道49号線とつながったインター線が出来、道路沿いに商業施設も出来た事により、交通量が多くなりました。横断歩道はありますが、信号がないため通学に危険が伴います。警察当局と連携し、速やかな対策をとって行きたいと思っております。



福島県議会議員 長尾 トモ子
企画環境副委員長

県政報告 ともこ だより



皆様のご意見、ご要望を 〒963-8041 福島県郡山市富田町前川原22 TEL:024-951-0341 FAX:024-951-0361
お気軽にお寄せ下さい みなさんよ! メールアドレス tomokon@circus.ocn.ne.jp (ホームページもあります)

ごあいさつ

世界は今、政治・経済等あらゆる分野で大転換期にあり、かつてないスピードで変化しております。日本は戦後、敗戦の辛い時代から国民一人ひとりが愛国心、郷土愛、家族愛を持ち、この小さな資源のない国を世界1、2位の経済大国にして来ました。しかしその発展の陰に、ひずみや失ったものも多くあったように思います。

2009年、いまこそ真の日本のあり方や人間について考える時であり、政治家も国民も自国愛を礎に責任を持って行動して行かなければなりません。先人が創り上げた日本のすばらしさに誇りを持ち、次世代にも、心豊かな日本の社会を継いで参りましょう。

行動する・走る「うつくしま汗かき人」長尾トモ子 (2009.1~2009.8)

東京に観光交流館オープン

7月11日に東京駅八重洲口の近くに「福島県八重洲観光交流館」がオープンし、県内の観光、県産品、伝統工芸、産業、商工業など丸ごと情報発信ができるようになりました。又、各市町村のイベントや観光の魅力を伝えるフェアも週替わりに開催されており、首都圏の人々と福島県との大きな交流につながることを期待しております。



「福島を丸ごとアピール」福島県八重洲観光交流館

郡山に子育て拠点施設「ニコニコ子ども館」オープン

私が県議になる前からエンゼルプラン策定委員、保育園会長として訴え続けて来た ①幼保一元化の「子ども課」、②子育てサロン情報発信のための拠点施設が今年4月にオープンし、利用者が1日平均1000人で7月初めに10万人を突破しました。特に子育て中の親子が集う子育てサロンや雨の日でも遊べる大型遊具、不登校児のための居場所や学習支援など、次世代を担う子ども達を社会が支援することの大切さを感じました。



「大型遊具で遊ぶ親子」ニコニコ子ども館

6月議会 一般質問の内容と当局の答弁についてお知らせ致します。

<11項目について質問>

子育て支援

問 子育て環境が深刻になっている今、国は1兆円をかけ、子育て創生・安心プランを行う。県は少子化対策にどのように取り組むのか。

答 乳幼児医療助成、放課後児童クラブ支援を行う。今後も安心子ども基金を活用し、子育てや出産支援、妊婦健康診断支援基金事業で妊婦検診、不妊治療助成などの拡充を図る。(知事)

問 全国に4万人以上いる児童養護施設や里親に預けられている児童がいるが県内の里親の状況は。

答 県内164組の里親があり、39組の里親に49名が養育されている。里親に対しての必要な知識技術修得の研修を行ったり、最も家庭的な環境である里親確保につとめている。(保健福祉部長)



6月議会登壇 平成21年7月1日

教育問題

問 現在進めている子ども読書活動推進計画終了後、県は子ども読書活動をどのように推進していくのか。

答 現在22年度までの実施期間として取り組んでいるが、市町村の計画は依然不十分。今年度予定している「県総合教育計画」の策定に合わせ、一年前倒して読書推進計画を策定していく。(教育長)

問 全国に142万人以上就学援助対象者がいるが、県内の要保護及び準要保護児童生徒の現状を尋ねたい。

答 平成17年は1万6274人で前年より118人増。全体の7.6%で前年より前年より0.7ポイント増加している。(教育長)

問 全国的に景気低迷中、県立高等学校に於いて、昨年度授業料免除を受けた生徒数・割合・免除額と制度周知について。

答 昨年、免除を受けた生徒は4970人で全体の9.5%、免除額は4億362万円。入学時すべての保護者に案内書配布とともに失業などで納入困難な時、随時説明する。(教育長)



“ホッと一息”子育てサロンに集まる親子



“子ども達が真剣なまなざし”の授業風景



JAICA二本松での外国語授業風景

教員・職員採用特別選考制度について

問 二本松の青年海外協力隊の研修所は全国2ヶ所のうちの1つである。他県のように県職員や教員採用において海外経験のあるJAICAボランティアを対象とした特別採用制度を導入すべき。

答 志願書にボランティア経験の記載欄を設けている。教員としての人物を多面的に評価している。又、県職員として求められる能力や資質など、変化する社会の諸課題に対応する人材を確保していく。(教育長、人事委員会)

首都圏との交流について

問 農産物をはじめとする県産品の販路開拓支援について。

答 県のホームページや楽天の「まち楽」において情報発信している。又、首都圏アンテナショップや「ふくしま市場」でも市町村の販路開拓を支援している。(観光交流局長)

問 福島県八重洲観光交流館において、市町村の観光や交流の推進をどのように支援し、福島をアピールしていくのか。

答 市町村の観光キャンペーンやイベント開催など、県内の総合的な魅力を都市住民に直接アピールし、更なる観光誘客や交流拡大につなげていく。(観光交流局長)



首都圏の人々にぎわう八重洲観光交流館



都会の子と田植え体験

土木・警察行政、子どもの安全対策について

問 片平小学校の児童の1/6が通る県道郡山矢吹線逢瀬川橋を早急に架け替えるべき。

答 幅員が狭く歩道が整備されていないので、通学や車両の円滑な通行に支障をきたしている。昨年より調査設計を実施している。今後とも事業を推進していく。(土木部長)

問 郡山北警察署の業務負担を軽減すべき。

答 管轄区域が広く、事件、事故の取り扱いなど警察官1人当たりの負担が高い。毎年増員しているが、さらに検討していく。(警察本部長)

問 県内に12人しかいないスクールサポーターを子どもを犯罪から守るためにも拡充すべき。

答 学校や地域ボランティアと連携し、子どもの安全対策に当たっているが今後関係当局と連携し検討して行く。(警察本部長)



片平町 逢瀬川橋 “通学の安全面”に不安

平成21年度福島県当初予算

一般会計総額8,754億4,800万円 ※実質で9年ぶり増

